

日本臨床栄養代謝学会 NST専門療法士

川手 佳幸 先生

勤務地：加賀市医療センター

出身地：石川県

資格取得：2009年1月

Q1 資格取得のきっかけは何でしたか？

私が勤務していた山中温泉医療センター（昨年4月に加賀市民病院と統合、現加賀市医療センター）では2004年に病院長の鶴の一声でNST活動を開始することになりました。NST活動を実施していない施設が多い中での試行錯誤でのスタートでした。何もかもが分からない中で、少しでも患者さまのお役に立てるよう勉強しようと考えたことが資格取得のきっかけです。看護師、管理栄養士とともにまずはNSTについて学ぶことの延長線上に資格取得がありました。

Q2 資格取得の最大の難所はどこでしたか？

当時スタッフの少ない職場でしたので実地修練に出かけるための時間を作ることが大変でした。また過去問のない時代でしたので、eラーニングサイトのバーチャル臨床栄養カレッジを中心にやみくもに勉強したことも苦勞の一つだったと思います。

Q3 この資格のやりがいは何ですか？

日々の業務ではいい実績ばかりではありませんが、看護師や他のスタッフからの相談に適切な提案を行えた時や、関わった患者さまの栄養状態が改善していく経過を実感できたとき。

Q4 普段のお仕事でこの資格はどのように活用されていますか？

当院では栄養サポートチーム加算を算定しています。医師や管理栄養士、薬剤師、看護師、臨床検査技師、ST、PTなどのNST専門療法士が連携しチーム医療に取り組んでいます。

Q5 資格を取得して良かったな、と感じることはありましたか？

当院のNST委員会は和気あいあいと業務にあたっています。親睦を兼ねてよく飲み会をしています。勉強も大事ですが栄養チームですので自分たちの栄養管理のため、おいしいご馳走を食べに行くことも楽しみになっています。もうすぐ岡山で学会があります。そこでの食事が楽しみです。

Q6 医師や看護師などとのディスカッションで気をつけていることはありますか？

患者さんの病態に応じた最適な栄養管理を提案できるよう、まずは主治医の治療方針を確認し、治療経過など情報を共有した上でディスカッションを行っています。

Q7 患者さんに接する際に気をつけていることはありますか？

当たり前のことかもしれませんが、患者さまの部屋に行く前に問題を抽出してからラウンドします。当院は全室個室ですので、大人数でぞろぞろと訪れると患者さまは驚かれます。また状態のよくない患者さまもおられるため回診はできるだけ速やかに終わることができるよう努めています。

Q8 その他、苦心していること、気を遣うことなどはありますか？

活動当初、某循環器医師よりNSTは何をサポートするチームなのかと揶揄され、自分の患者には関わるなどひどく叱責された経験があります。チーム全体の勉強不足と仲良しクラブの域を出ない行いが医師の逆鱗にふれたのだと思います。それ以降は主治医の治療方針を把握し、病態に応じた栄養療法を提案するよう心掛けるようになりました。薬剤師として輸液の処方設計など自信をもって提案するよう努めています。

Q9 この資格を目指している後進へ何かアドバイスを！

輸液の処方設計から各製剤の特徴、病態別の輸液療法など薬剤師として習得しておきたい知識を再確認できると思います。またNST専門療法士として身に着けた知識は病棟薬剤業務においても有効に活用できると考えます。他の資格に比べ比較的取得しやすいものだと思いますので、是非取得をめざしてみてもいいのではないでしょうか。

Q10 この資格の取得要件を教えてください。

- ・ 歯科医師、管理栄養士、看護師、薬剤師、臨床検査技師、言語聴覚士、理学療法士、作業療法士、および歯科衛生士のいずれかの国家資格を有すること
- ・ 当該国家資格により5年以上、医療・福祉施設に勤務し、当該施設において栄養サポートに関する業務に従事した経験を有すること
- ・ 日本静脈経腸栄養学会学術集会に1回（10単位）以上、学会が主催する臨床栄養セミナーに1回（10単位）以上参加することを必須とし、必須単位数30単位以上を有するか、必須単位数に加え、学会が認める栄養に関する全国学会、地方会、研究会への参加単位数の合計が30単位以上あること
- ・ 認定教育施設（以下認定施設）において、合計40時間の実地修練を修了していること
- ・ 上記条件を満たした後、認定のための試験に合格していること